

# 3年「わたしたちの暮らしとお店の仕事」で 地図帳を活用してみよう！

今回は、2025年6月に戸田市立戸田南小学校3年生の社会科の授業を訪問！

地図帳が大好きな先生の授業では、児童が地図帳を楽しみながら学ぶ姿が見られました。

『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』指導者用デジタル教科書（教材）（以下、デジタル地図帳）などICTを活用しながら、3年生で地図帳を指導するポイントをご紹介します。

今回訪れた学校 戸田市立戸田南小学校

指導の先生 望月 幸太 先生

単元名 3年「わたしたちの暮らしとお店の仕事」

埼玉県戸田市は、教育におけるICT活用に力を入れています。戸田市立戸田南小学校では、児童は1年生から1人1台のタブレットを積極的に活用し、3年生は、1日に5時間ある授業のうち3、4時間は、どの教科でもタブレットを活用して学習しています。社会科の授業では、先生がロイロノートで共有する資料やワークシートとともに地図帳を活用しながら進めています。



先生は指導者用デジタル地図帳で、児童は自分の地図帳で同じページを確認しながら授業が進みます。該当箇所を前で大きく見せることで、児童の理解も深まります。

## 授業の流れ

地図帳、写真、ワークシートの3つが主な資料。気づいたことや疑問はロイロノートで共有するワークシートに記入。

### 1 導入（地図帳で「水戸市」と「高森町」を探してみよう。）

▶右のQRコードからWeb ページ「何でも日本一」にアクセスすることができます。



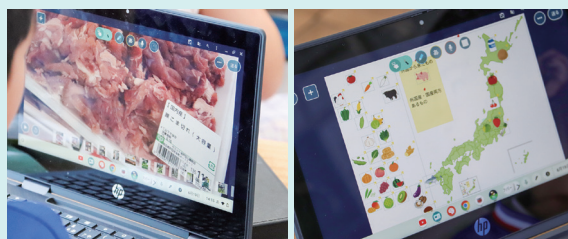
地図帳で「水戸市」と「高森町」を探して、産物の絵記号からどのような産物があるかを調べ、帝国書院 Web サイト「統計でみる都道府県のすがた」や地図帳（p.111～112「日本の統計」）からその県の日本一の産物などを確認しました。児童は索引を使って場所を確認し、記号や土地利用の色から水戸市のある茨城県は「メロン」の絵記号がある、熊本県高森町の周りは「山が多い」など、気づいたことを活発に発表していました。

### 2 調べる【産地調べ】

スーパーマーケットでは具体的にどのようなものを売っているのか、それはどこからきたものかを調べました。児童は、ロイロノートで共有された先生オリジナルの資料を開き、野菜や肉、牛乳などの写真を見ながらパッケージの産地表示を確認し、産物のイラストを日本地図上の対応する都道府県に配置しました。産地が分からない時は周りの人に聞いたり、都道府県の位置が分からない時は地図帳（p.128～129）を見たりしていました。それから気づいたことと疑問に思ったことを班になって話し合いました。児童からは、「関東地方にたくさんある」「お魚は日本じゃなかった」といった意見が出ていました。



帝国書院Webサイト「統計でみる都道府県のすがた」の茨城県「何でも日本一」。



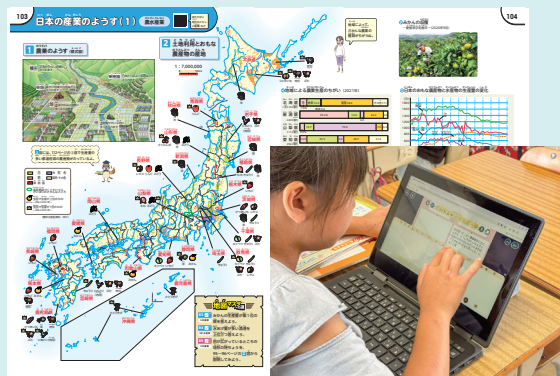
先生が用意したスーパーマーケットで売られている商品の写真と、先生が作った日本地図のオリジナル資料。

### 3 振り返り

地図帳の「日本の産業のようす(1)」(p.103~104)を確認しながら、スーパーマーケットで売られている商品がどうしてその産地から仕入れられているのかなど、児童全員の気づいたことや疑問に思ったことをロイロノートで共有しました。

最後に、次回、校外学習でスーパーマーケットを見学する際に、お店の人に聞きたいことを考え、意見を出し合いました。

令和7年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』  
p.103~104②「土地利用とおもな農産物の産地」



ロイロノートでまとめる。

### 児童の様子

地図帳を開いて真剣に場所を探す姿、県名の読み方など分からないことを児童同士で教え合う姿、気づいたことを積極的に発言する姿、それぞれに学習を楽しみながら主体的に取り組む姿が見られました。

児童は、「水戸市」の場所を、索引を使って調べていました。

班になって、タブレットを見せ合ったり、気づいたことや分からないことを話し合ったりしていました。



分からないことがあっても先生はすぐに教えず、児童同士で教え合うように促していました。

### 授業を終えた先生に感想を聞きました

3年生では、地図帳を使う場面は多くありませんが、4月に国語で国語辞典の使い方を学習し、地図帳の索引の使い方を学ぶタイミングとしてもいいので、同時期に学習しました。都道府県を学ぶのは4年生からですが、普段から授業の導入などで、1日2つずつ遠い都道府県から順に地図帳で場所を調べさせたり、QRコンテンツの「地図記号クイズ」などをやらせたりすることで、地図帳に親しむ機会を作っています。5年生になって急に地図帳を使うといっても、子どもたちには難しい。3年生の入門期のうちに地図帳を活用するかしないかで、5、6年生になった時の使い方も学びの深まり方も変わります。3年生で知っておけば便利なことや嬉しいことがたくさんあるので、3年生で地図帳を使って早すぎることはないと思います。

昨年度は5年生の担任をしていたのですが、その時に初めてデジタル地図帳の授業支援ツールを使いました。ワークシートや授業スライドが収録されているので、それを活用することで授業の準備もスムーズになりましたね。授業に合わせた資料を探すだけでなく、収録されている資料を見て、もっと分かりやすい授業ができそうだと授業づくりの新しいアイデアも浮かぶようになりました。

とはいえ、3年生の段階では資料が複雑だと何にどう使うか分からない。だから、やることはシンプルに、資料は分かりにくくならないように気をつけています。今日の授業では、子どもたちは地図帳で「水戸市」を喜んで探していました。県名と県庁所在地が一致していない、むしろ分からないところの方が一段と盛り上がるんです。そこまで地図帳を楽しめるようになったのも、3年生の4月に、地図帳のはじめの方にある「地図のなりたち」や「地図のやくそく」を学習したことが大きいと思います。特にQRコンテンツの「地図ってなんだろう」のドローン映像はとても役に立ちましたね。私は地図帳が大好きなので、子どもたちにも好きになってほしい。そのためには地図帳になじむための積み重ねが大切だと思っています。

地図帳の「QRコンテンツ」にある「地図記号クイズ」の画面。地図帳のQRコードを読み込めば利用できます。



望月 幸太 先生  
戸田市立戸田南小学校  
3年生担任、社会科主任  
教員歴：8年目

### 先生オススメ！ デジタル地図帳の 活用ポイント

デジタル地図帳は、必要な場面で必要な部分に焦点をあてた状態で児童に提示したいので、事前準備として複数のタブで開いておいたり、前からの学習履歴を残しておいたりします。そうすると少ない時間の中でスムーズに授業を進められると思います。

▼下のQRコードから「地図記号クイズ」にアクセスすることができます。

